

開催報告「第4回 CHUBU 懇話会」 & 「2015年度中部支部例会」

清水 一憲

暑い日々の中に秋の気配を少し感じ始めた8月下旬から9月上旬に、中部支部の2大イベントであるCHUBU懇話会と支部例会がそれぞれ開催された。

本年度のCHUBU懇話会は、8月21日（金）にアステラスファーマテック株式会社 富山技術センターで開催された。参加者は、富山駅に集合しマイクロバスで15分程の同センターに向かった。まず、再生医療をテーマに2件の講演が行われた。1件目は、名古屋大学大学院創薬科学研究科の加藤竜司氏による「画像情報処理技術を用いた再生医療における細胞品質管理」、2件目は、アステラス製薬株式会社の柳田豊氏による「再生医療の産業化と国際標準化が果たす役割」と題した講演があった。

その後、同センター内の生産ラインを見学させていただいた。免疫抑制剤であるタクロリムスを原料とする、カプセル製剤「プログラフ」とアトピー性皮膚炎治療薬「プロトピック軟膏」の生産ラインであったが、高薬理活性物質を取り扱うということで、非常に厳重に管理されていた。特に厳重な区画では、作業者が宇宙服のようなエアスーツを着ており、見学者の目を引いた。その後、富山駅前に移動し、富山県民会館内レストランにて懇親会が催された。

本懇話会には、お忙しい中、本部の五味会長、木野・川面両副会長にもご参加いただいた。また、貴重な機会をご提供いただいた、アステラスファーマテック株式会社 富山技術センターの皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

中部支部例会は9月4日（金）に名古屋大学VBLホールにて開催された。伊藤支部長の開会挨拶に続いて、まず3件の招待講演があった。名大・環境医学研究所の澤田誠氏による「ホットメルト質量分析イメージングによる脳細胞活動の測定と薬物動態解析への応用」、名大院・生命農の中野秀雄氏による「無細胞タンパク質合成系と生細胞発現系を駆使した活性タンパク質合成法とスクリーニング手法」、岐大・工の池田将氏による「化学反応性分子と生体分子からつくる刺激応答性材料」と題した講演が行われた。続いて、8件の若手講演があった。

優秀な講演には支部幹事メンバーによる審査で支部長賞が与えられるということで、緊張感の漂う中、活発な議論が行われた。中野副支部長の閉会挨拶に引き続き、そのまま会場後方のパーティースペースで交流会が開催された。交流会の最後に支部長賞受賞者が発表され、本年度は名大院・生命農・中野研の朱博氏「Development of activity-based ultra-high-throughput screening system of peroxidase by using microbead display」と名大院・工・本多研の新井小百合氏「藍藻変異株スクリーニングのための磁性微粒子を用いた1細胞孤立アレイ培養技術の開発」が受賞した。例会の参加者は60名を超え、交流会にはその大半の40名以上が参加した。

来年度も勿論、この2大イベントは開催される予定である。より多くの方々にご参加いただき、さらに盛会となることを祈念して、開催報告とする。



図1. CHUBU懇話会での講演会の様子



図2. 支部例会での支部長賞受賞の様子（左から朱氏、伊藤支部長、新井氏）